

平成 29 年度 横須賀産業ビジョン推進委員会 議事録

- 1 日 時 平成 29 年 11 月 6 日 (月) 10 : 00 ~ 11 : 30
- 2 場 所 横須賀市役所 3 号館 3 階 302 会議室
- 3 出席委員 木村委員、丹下委員、佐藤委員、秋本委員
- 4 事務局 経済企画課 蒲谷課長、櫻井係長、吉崎
- 5 傍聴者 なし

6 議事概要

会議は、次第 (別添) のとおり進行した。
主な会議の用紙は次のとおり。

I 推進委員会について

推進委員会の位置付けについて、事務局より説明を行った。

II 諮問について

経済部長から委員長へ諮問文書を提出した。

III 議題

事務局から説明を行い、質疑応答や各委員からの意見をもらった。

(1) 横須賀産業ビジョン 2011 の取り組みについて

【丹下委員】

AI、シェアリングビジネス等いろいろな新しい動きがあるが、AI と YRP は、なにかつながりがあるか。

【事務局】

自動運転走行は、YRP を実験フィールドにしていきたい というような動きはある。

横須賀市内の研究機関と市内企業はなかなか直接結びつかないので、まず、研究機関相互の連携を図り、そのなかに市内企業が入っていければいい。

【丹下委員】

横須賀で行っている「民泊」は、いわゆる「Airbnb」（宿泊場所として自宅などを貸し出すインターネット上のサイト）とは違うのか。

【事務局】

長井地区で、体験型修学旅行として受け入れを行っているもので、「Airbnb」ではない。長井地区では、まちの活性化を含め、取り組んでもらっている。

【秋本委員】

横須賀で行っている民泊は、「Airbnb」と違い、「体験」を提供している。

【佐藤委員】

まわりの環境が変化し、素材もシフトしているので、新素材について勉強する場がほしい。最初から専門的だと敷居が高いので、市民講座のようなものから始めてほしい。

【秋本委員】

時代にあった研修も必要なので、工業会とも相談し、最初は軽いところから入れるように考えて研修会を行いたい。

【丹下委員】

観光PRは今後も進めていってほしいが、可能であれば、インバウンドを数値で捉えてほしい。

【事務局】

横須賀市観光立市推進アクションプランで把握している。

【秋本委員】

外国人よりも、主に国内の観光客が増えている。
宿泊でないと消費が少なく、経済的な効果がないので、宿泊を増やすための策を考えないといけない。

(2)「横須賀市中小企業景況レポート」について

【丹下委員】

中小企業PR補助金について、企業のPRのために横須賀市がやっていることはあるか。

「横須賀中小企業100社」とか「グローバル100社」といった何社かを選んで表彰し、PRするようなサイトがあると企業のPRに役立つのではないか。

【事務局】

今年度、市内製造業を広くPRするための冊子を作成の予定。

【丹下委員】

そういう冊子があると、ビジネスマッチングの推進に有効だと思う。

今、大学生はみんな就職できる状況にあり、企業の人材不足という話はよくわかる。学生は、自分の知っている身近な企業しか見ないので、もっと製造業を知ってもらい、就職してもらい機会になる。

IV 報告

事務局から報告を行い、質疑応答や各委員からの意見をもらった。

市内企業求人情報発信サイトの開設

【丹下委員】

シニアの方にはサイトが使いにくいのではないか。

【事務局】

シニアでも、就職を希望する方は、大丈夫ではないか。

ハローワークでも、シニア層の求人申し込みがかなりある。やる気のある方は、企業側も受け入れている。

【秋本委員】

横須賀市の生産年齢人口が全人口に占める割合は、2010年に61%だったが、2030年には57.7%になる。特に商業、飲食店では雇えなくなってしまうので、外国人も考えていかなくてはいけない。

【木村委員】

外国人が入ってくると、宗教問題とか後が大変ではないか。
技術革新で乗り切っていないと。言葉の問題もある。

【事務局】

この問題は、まずはICT化とか効率化とか技術革新で埋めていかなければいけないが、福祉とか介護のような人が必要などころには、技能実習制度に介護が追加されたことから、技能実習生として外国人を受け入れていくようになるのではないか。
一方で、いろいろな軋轢が生じていることも承知している。

【佐藤委員】

受け入れた外国人が高齢になったときにどうなるのか。

【事務局】

技能実習生は、5年で帰国する。外国人の生活保護等が問題になっている地区では、日系人などもともと在留資格をもっている人が受給している。

【木村委員】

経営者はコストの面だけで、外国人を受け入れたがっているが、あとあとのことまで考えてほしい。

Vその他

【佐藤委員】

浦賀警察署が久里浜へ移転するとのことだが、京急久里浜駅側から徒歩でいくには遠回りで大変なので、跨線橋のようなものを作る構想はあるのか。

【秋本委員】

久里浜地区の再開発のプロジェクトがあるので、そのなかで考えていくことになる。

【佐藤委員】

シニア層が増えていくので、商店街も含めてシニアにもっと楽しみを与えてあげるような計画はないか。シニアが歩く楽しみとともに、商店街をまわる工夫があるといい。

【事務局】

観光では歩くイベントがいろいろある。グループで歩いているシニアも多い。その方たちが商店街にきていただける工夫が必要。

【秋本委員】

行政は人を集めることはできるが、商売は各店舗の工夫が必要。
社会情勢が変化しているのだから、業態の変更も考えなくてないけない。そのための融資も用意している。

【丹下委員】

市長が変わって、産業政策に変化はあったか。

【事務局】

市長は、議員提案で中小企業振興基本条例をつくり、中小企業振興には力を入れているし、篤い思いを持っている。